

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490200223		
法人名	株式会社中央ライフサービス		
事業所名	グループホームおり鶴		
所在地	三重県四日市市南小松町629番地		
自己評価作成日	令和2年3月5日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&Ji_gvosyoCd=2490200223-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 2 年 3 月 13 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様やご家族のニーズに合わせたサービスの提供を心がけております。全員一律のサービスではなく、一人一人に合わせた生活が送れるように見守り、介護を行っていきたくと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の真ん中に居間兼食堂があり、その共有空間を取り囲むように利用者の居室がある。その全ての居室の窓からは畑(田んぼ)が見え、のどかな1年の四季を身近に感じられる。「アットホームでのんびりと」を理念として掲げ開設5年目を迎えている。管理者の体調不良で苦労はしているものの、若い職員ががんばって仕事を引継ぎ、利用者同士の仲もよく和やかな雰囲気事業所の中に感じられる。地元自治会との連携もでき、地域の情報をいただくだけでなく防災についても協力体制を築きつつある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践出来ていないと思われる為、今後取り組んでいきます。	サービス理念として事業所パンフレットに大きく表示しているし玄関にも掲示している。職員には時々話しかけたりしているが、強要せず、楽しくストレスがたまらない「アットホーム」な事業所にすべく努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はほとんどないので、今後の課題です。	自治会から行事案内をいただき、参加できるものには参加している。またボランティア団体が隣接のデイサービスに来た時は、みんなで見に行っている。小中学校との連携や、事業所の祭りに地域の人を招待することは今後の課題としている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献はなかなか難しい状況です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を行っており、サービス向上に活かしております。	行政はじめ自治会長や民生委員、家族の出席を得て年6回を目指し開催して来たが、今年は新型コロナウイルスの感染拡大で6回目が開催できなかった。自治会のイベントのことや防災について話題となった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者の方には運営推進会議に参加して頂き、協力関係を築いております。	介護支援専門員が介護保険関連の手続きで市役所に出向くことが多いし、管理者は運営推進会議参加の担当者と連携を密に取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関に施錠はしておりませんが、中から職員でないと開けられない様にはなっております。	管理者・職員とも身体拘束をしないケアに積極的に取り組んでいるが、平成30年度の介護保険法改正に対し、身体拘束防止関連の組織的な取り組みが出来ておらず、早急に取り組むべく準備している。	法改正による委員会の設置や研修の実施、指針の作成等、早急な体制作りが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に対しては、絶対に起こってはならないと考えており、会議を行い防止に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日々の仕事に追われ、中々出来ておりません。今後の課題です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約又は改定等の際は、適宜説明をしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的にサービス担当者会議を行い、利用者や家族の意見を取り入れております。	利用者とは個別に話を伺っており、甘いおやつばかりでなく時には辛いオカキ類をとの要望があった。家族からは「入院中の姉を見舞いに行く」ことを目的に、車椅子利用の利用者本人が歩行器で歩けるよう意識付けしてほしいの要望があり実践している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に業務会議で職員の意見や提案を聞く機会を設けております。	毎月1回開催の業務会議の席で話し合ったり、仕事中に個別に聞いたりしている。ケアの改善の提案が多く、最近では認知症で収集癖のある方の対応について意見交換した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めるよう努力しております。今後の課題です。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会は日々の業務に追われて今のところありません。今後の課題です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流はなかなか出来ない状況なので、今後の課題です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人様の背景を理解し、傾聴し、安心を確保する様努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の要望に応えるよう努力しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一番に必要な事を考え、色々な提案を持って対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入所者様が協力し、出来ることをしていただいて信頼関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人様と家族様の絆を壊さぬよう、間に立ちながらご家族と協力し、ご本人様を支えていくように考えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人とのつながりは、中々難しいものがありますが、来所される知人様との交流は行ってもらっております。	知人・友人の訪問が時々あり、画家の先生であった利用者には生徒の訪問が多い。また家族に連れられて馴染みの美容院や喫茶店、食堂など行かれる方もあり、正月には帰宅し一家で食事をされた方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が悪くならない様、常に気を配り、皆で参加できるレクリエーションをしたりして、交流をはかっております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者様のご家族様が来所された時もお話を聞くなどしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人の暮らし方に沿うよう努力しています。	利用者一人ひとりと時間をかけて話し合っているが、ついつい昔話になってしまうことが多い。介護支援専門員が時間をかけて「やりたいこと」を聞いているが、車椅子の方から歩行器で歩きたいという希望が強くて、介護計画に入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴や背景を理解する様努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々人の心身状況、能力を見極めるよう努力しております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人様、御家族様、職員、ケアマネが話し合い、介護計画を作成しております。	毎月の業務会議で本人・家族の意向や要望を基に、利用者全員のサービス内容が実行できたか否かのモニタリングを実施している。介護計画の見直しは6ヶ月毎に行うと共に、状態に変化があれば随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に残し、情報を共有して介護にあたっております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人様、御家族様の様々なニーズに対応出来るよう、柔軟に対応しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は中々把握できておりません。今後の課題です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診をお願いし、緊急時にも即時かかりつけ医の指示を仰げるよう連携しております。	9人全員が協力医をかかりつけ医としており、月2回の訪問診療を受診している。緊急の場合の24時間対応はしてもらえる。また他科の受診は基本家族が付き添い、家族が不可の場合のみ職員が付き添う。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1度の訪問看護の看護師さんに、様々な相談をしております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、情報を細かに病院へ提供し、退院時には病院の指示を忠実に守り対応しております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する前の段階で、御家族様とは話し合いを行い、事業所で出来ることを説明させて頂いております。	入居時家族とは事業所でどこまで出来るかを話し、終末期のあり方について話し合っている。看取りの指針は未だ作成していないが、要望があれば看取りはする方向で話している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の緊急対応は出来るようにはなっていますが、訓練は今後の課題です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行うとともに、運営推進会議にて地域との協力体制を築いております。	年に2回、併設のデイサービスと合同で訓練をしており、運営推進会議でも議題としている。昨年の台風や豪雨で停電の経験もしており、ヘルメット・懐中電灯の準備や食料の備蓄もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、言葉かけには注意しております。	言葉かけには、利用者一人ひとりに注意している。耳の遠い方に対しては、つい大きな声になってしまうので特に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人様の希望をかなえ、自己決定できるよう働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご自身のペースに合わせた支援を行っております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人が恥ずかしくない身だしなみやおしゃれができるよう支援しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	様々なメニューを提供し、食事を楽しんで頂いております。後片付けが好きな利用者様には、洗い物をしていただいております。	食材は業者委託であり、職員がメニューに従い調理している。日曜日の朝はパン食とし、パン好きな人にも応えている。食後の食器洗いを利用者の一人がされていたが、職員と見違えるほどテキパキとされていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々人の食べる量を把握し、栄養バランスを考え、水分摂取も不足の無いよう考えております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を減らすように、個々人に応じた声掛けを行ってトイレでの排泄をうながしています。	排泄の失敗がないように、一人ひとりに合わせた声掛けでトイレに誘導しており、全員がトイレでの排泄である。自立の方に対しても、汚れがないかを確認している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に対しては薬に頼っており、運動の工夫は今後の課題です。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2度の入浴と決めており、御本人の希望には浴えてないので、今後の課題です。	お風呂は毎日沸かしている。午前中に3人とゆっくりと入浴しており、入浴剤や”季節の湯”を楽しんでいる。お風呂嫌いの方はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	誤嚥リスクを考え、食後は少し休んでもらった後、好きな時間に寝ています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報は常に最新のものをファイルし、確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来るお手伝いなどをさせていただき、各個人の役割を作ることで張りのある生活をしていただけるようにしております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿っては中々難しいものがありますが、散歩に出掛けたり、外食に皆で出かけたり戸外へ行けるよう努力しております。	事業所の周りは畑(田んぼ)であり、四季が感じられ散歩道に適している。遠くの方まで歩かれる方もいる。天気の良い日は玄関前に椅子を並べ、みんなで大声で唄を歌うときもある。花見や外食に出掛けることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、お金に関しては施設預かりになっています。所持したり使えるようにはなっていないので、今後の課題です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りは実情出来ておりません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は居心地が良いように工夫しております。室温も不快で無いよう調節しております。	建屋の真ん中に居間兼食堂があり、天井には天窗があるので居間全体が明るい。壁には行事写真があったが、月初めまで利用者手づくりの季節の作品が飾られていた。大きなテレビ前にテーブル・椅子・ソファがあり、利用者は好きなどころでくつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士、ゆったりとした時間を過ごしていただけるように工夫しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は好きなものを置いて頂いたり、写真などを飾って頂いたりして、居心地の良いようにして頂いております。	どの部屋にも大きなクローゼットがあるので、部屋の中はすっきりと片付けられている。タンスの上にはテレビが備え付けられている。タタミの部屋が2部屋あり、布団の上げ下ろしは利用者がしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室などわかりやすく示し、自立した生活が送れるようにしております。		